

化学でみる

過去と未来

公益社団法人日本化学会
第104春季年会 市民公開講座

P R O G R A M

13:00-13:05 開会挨拶

東京大学 岩崎 純史

13:05-13:40 クジラの「骨」に生きる

史上最大の動物であるクジラ。死後、その巨大な体躯は有機物塊として海底に落ち、そこに生物が群がる。沙漠に点在する“オアシス”の如きであるが、住める生物種は限られている。酸素は枯渇し、毒が充満している環境だから。そんな過酷な“オアシス”である「鯨骨」とそこに住む生きもののスゴさをご紹介します。

金沢大学 准教授 ロバート・ジェンキンス



13:45-14:20 フードロスを減らし温暖化を防ぐ触媒の働き

触媒は化学反応を促進する物質です。私たちは触媒を使って野菜・果物の熟成を早めるエチレンを分解し、鮮度を保ちフードロスを減らす研究を行っています。また、バイオマスからプラスチック原料などをつくっています。フードロス削減やバイオマス利用は温暖化の抑制に有効です。炭素循環に貢献する触媒の研究を紹介します。

北海道大学 教授 福岡 淳



14:25-15:00 鏡で挟まれた分子

光を反射するミラー（鏡）を向かい合わせ、その間に分子を入れると、分子の発光、反応性、結晶化の様子など様々な性質が変わります。この現象は長らく物理学の一分野として研究されてきました。本講演では、この物理現象と化学の融合で、どのようなことができるようになってきたのか、お話しします。

北海道大学 准教授 平井 健二



15:05-15:40 カーボンニュートラルを実現する
未来のエネルギーシステム

気候変動を食い止めるために不可欠なカーボンニュートラル、その実現には化石燃料からの脱却が不可欠です。明るく豊かな社会とカーボンニュートラルを両立できるエネルギーシステムの姿を一緒に考えましょう。

東京大学 教授 杉山 正和



日本化学会では、一般市民の方々を対象とする恒例の「市民公開講座」を企画しました。今回も私たちの生活に密接に関連した身近な話題を、それぞれの分野でご活躍の著名な先生方にわかりやすくお話しいただきます。皆さんが楽しんでいただける充実の半日になると思います。奮ってご参加ください。

2024
3.20 WED
13:00-15:40

ハイブリッド開催 参加費無料

現地会場 日本大学
船橋キャンパス
13号館1326教室

アクセス 東葉高速鉄道
「船橋日大前」駅西口 下車
徒歩1分
(東京メトロ東西線乗り入れ)

オンライン Zoom
主催 公益社団法人日本化学会
第104春季年会実行委員会
共催 日本大学 理工学部
後援 船橋市教育委員会
八千代市教育委員会

お申込みはコチラから

春季年会HPより
お申込みください。



<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/csj104th/content/shimin>